

## 令和6年度 学生と学長とのディスカッションについての対応状況等

【大学運営】

件名	学生の応募時のコメント	提案概要	回答
埼玉大学の運営方針と授業の実施方法について	<p>資金・コスト上昇等の理由で埼玉大学が学費を値上げする可能性はあるのか。特にコスト増の一因である電力について、大学HPのトップで使用状況がリアルタイムで見られるほど逼迫する状況にあるにも関わらず、夏場に気温が35℃を超える中で学生を登校させ、冷房を使うなど、対面授業を重視するあまり学生の身体的・費用的負担について全く考えていない運営が行われている様に思う。これらの点について、大学職員の方々も含めてこれらのことに関する考え方や実情を訊きたい。</p>	<p>大学の学費値上げの可能性について、特に電力コストの増加が影響していると考えています。大学の電力使用状況がリアルタイムで公開されるほど厳しい中で、夏の暑さの中で対面授業を続け、学生の負担を考慮していない運営が行われているように感じます。この点について、大学職員の方々への考えや実情をお聞かせしたいです。</p>	<p>学費の値上げやコスト増加についてのご指摘、特に電力コストに関する現状について、真摯に受け止めております。大学としては、学生の身体的・経済的負担に配慮するとともに、環境や財政状況を考慮した運営を行うことが重要だと認識しています。対面授業や冷房の使用に関して、学生の健康や学びの環境を最優先に考えた対応を行っているところですが、今後も改善の余地がある場合は、関係者と協議し、より良い運営を目指してまいります。</p>
オールインワンキャンパスについて	<p>埼玉大学は学校の特徴、特徴として「オールインワンキャンパス」を掲げています。これは埼玉大学に属する全ての学科学部の校舎が一つのキャンパス内に集まっているということです。しかしながら、そのオールインワンキャンパスによって生徒にもたらされている便益を大学生活の中で感じる事ができません。むしろ学食内の座ることすらできない混雑、大型教室のパディングなど、学部全集中による弊害の方を感じる事が多いです。オールインワンキャンパスが悪いことだと言っているわけではなく、その価値を最大限活用しきれず、無用の長物になってしまっているのではないかと感じます。例えば他大学(筑波大学など)が行っている、学部の垣根を超えた履修登録ができる学際性のあるシステム導入、他学部研究見学、学部間交流、などの学部同士の繋がりが横断を促進できる制度をもとめます。私はグローバルガバナンス専修なのですが、よりハイレベルな授業になればなるほど、グローバルガバナンス専修の学生しか教室にいない、という状況になります。大学キャンパスという多くの人と出会う場で、そのような閉鎖的なコミュニティに止まってしまっていることがあまりにもつらいな思っています。</p>	<p>本学の「オールインワンキャンパス」は、全学部の校舎が一つのキャンパスに集まっているという特徴がありますが、このシステムによって、学生生活において便益を感じることが少ないと感じています。むしろ、学食の混雑や大型教室の重複など、学部集中による弊害が目立っています。このオールインワンキャンパスの価値を最大限活用するために、他大学のように学部間での履修登録、学部間交流、学際的な授業や研究見学など、学部の垣根を超えた制度を導入することはできないでしょうか。特に、専修に閉じた学びになりがちな環境を改善し、より多くの学部間の交流が促進されることを望んでいます。</p>	<p>オールインワンキャンパスに関して、便益が十分に感じられないというご指摘をいただきました。学部間での交流や学際的な学びを促進するため、学部間の履修登録や交流活動の充実については、今後の改善策として検討してまいります。また、学内の混雑や教室の重複問題についても、学生の学びや生活がより快適に進められるよう、環境の整備を進めていきたいと考えています。</p>
埼玉大学は大学の役割を果たしているのか	<p>埼玉大学が大学としての役割を果たしているかについて討論するために、このお題を選んだ理由は以下の通りである。大学は本来、学問を学ぶ場であり、その目的を最大化させるための取り組みが明確に示されている必要がある。しかし、埼玉大学においては、この点において課題が残されていると考える。具体的に考えると、大学は、4年間の限られた遊べる時間を最後の時間と捉えている印象。唯一、大学受験後から多くの時間を費やすのは就活なのではないかと感じる。このような現状に対して、大学が「学びの場」としての本質を見失い、「就職予備校化」しつつある現状が懸念される。討論では、埼玉大学がその役割をどのように果たし得るのか、また「学びの場」としての大学を維持・発展させるために何か必要かを議論したい。</p>	<p>大学は本来、学問を学ぶ場であり、その目的を最大化させるための取り組みが重要だと考えます。しかし、現状では大学が「学びの場」としての本質を見失い、就職活動に重点を置きすぎている印象があります。このような状況に対して、大学が「学びの場」としての役割をどのように果たし、維持・発展させていくべきかについて議論したいと考えています。</p>	<p>大学が「学びの場」としての本来の役割を果たすことは非常に重要であり、学問の追求を支援するための取り組みが求められると認識しています。大学としては、学問を深める環境の提供とともに、学生の多様なキャリア選択を支援するバランスの取れた教育を目指しています。今後も、学びの場としての大学のあり方を維持・発展させるため、さまざまな取り組みを検討してまいります。</p>
埼玉大学における学生の生活環境と学習環境の改善について	<p>私が学長と意見交換したいテーマは、「埼玉大学における学生の生活環境と学習環境の改善について」です。まず、学内のタバコの広告宣伝や販売、風俗営業の広告宣伝に対する取り組みについて議論したいです。これらの広告は学生に悪影響を及ぼす可能性があるため、適切な規制が必要です。また、タバコやドラッグ、過度な飲酒、不適切なSNS使用についての啓発活動の強化も重要です。次に、留学生の受け入れ環境の整備や合理的配慮についても話し合いたいです。特に正規留學生と交換留學生の待遇差をなくし、平等な環境を提供することが求められます。さらに、学校施設や設備の老朽化、一部教職員の官僚主義や学生ファーストの意識の欠如についても改善策を提案したいです。学校内のリサイクル促進、学食の持続可能な提供、グリーンエネルギーの推進も重要な課題です。成績評価の公正さや教員の授業の質の向上、講義の国際性の欠如、科学的思考力を養う講義の提供についても改善が必要です。これらの取り組みを通じて、埼玉大学が学生にとってより良い学習環境と生活環境を提供できるよう、学長との意見交換を通じて具体的な改善策を模索したいと考えています。</p>	<p>学長との意見交換で取り上げたいテーマは、学生の生活環境と学習環境の改善です。具体的に、学内のタバコや風俗営業の広告に対する規制、タバコやドラッグ、過度な飲酒、SNS使用の啓発活動の強化が必要だと考えています。また、留学生の平等な待遇、教職員の官僚主義や学生ファーストの意識の欠如、学校施設や設備の改善、リサイクルや学食の持続可能性の推進も重要な課題です。さらに、成績評価の公正さや教員の授業の質の向上、科学的思考力を養う講義の提供についても改善を求めます。これらの点について、改善策を議論したいと考えています。</p>	<p>学生の生活環境や学習環境の改善は、大学としての重要な課題です。キャンパス内の施設の充実や、快適な学習空間を提供するために、定期的な施設改善を取り組んでいきたいと考えます。様々な重要な問題についてのご指摘をいただき、大学としても学生の皆様にとってより良い学習環境や生活環境を提供するために、引き続き努力してまいります。</p>
埼玉大学のDX推進と公式アプリの活用戦略	<p>我々は、公式アプリを導入することで、埼玉大学のデジタル環境がさらに充実し、学生と教職員とのコミュニケーションがよりスムーズになると考えます。例えば、現在のキャンパススクエアの機能を盛り込み、アプリから履修登録ができるようになったり、キャンパスマップやスケジュール管理機能が充実したりすることで、日常生活が便利になります。また、我々が作成しているタスク管理アプリと連携する機能を取り入れることで、学内外のリソースを有効活用できます。さらに、このアプリを埼玉大生に広く利用してもらうことで、卒業後もOBOGとの連携が取りやすくなります。OBOGネットワークの強化は、在学生にとってのキャリア支援やメンターシップの充実につながり、大学全体のコミュニティの強化につながります。加えて、学生が主体となって作ったアプリなので、信頼性や親しみやすさが高まり、大学のブランドイメージの向上にもつながります。これにより、新入生の募集や在学生の満足度もアップすると考えられます。長期的には、アプリを通じたデータ分析を活用して、教育や運営の質を継続的に改善し、埼玉大学の競争力を強化することが目標です。私たちのチームは、これらの目標を達成するために、大学と協力しながら、持続可能な開発と運用体制を整えていきたいと考えています。</p>	<p>大学のデジタル環境をさらに充実させ、学生と教職員のコミュニケーションをスムーズにするために、公式アプリの導入を提案します。アプリを活用して、履修登録やキャンパスマップ、スケジュール管理機能を強化し、日常生活をより便利にすることができます。また、タスク管理アプリとの連携により、学内外のリソースを有効活用することができ、卒業後のOBOGネットワークの強化やキャリア支援にもつながります。このアプリを通じて、大学のブランドイメージの向上や新入生募集の促進にも貢献できると考えています。さらに、データ分析を活用して教育や運営の質を改善し、大学の競争力を強化するための取り組みを進めていきたいと思えます。このアプリ導入について、大学の方針や今後の展開についてご意見をお聞かせください。</p>	<p>大学のデジタル環境の充実について、公式アプリの導入に関する具体的な提案をいただきました。履修登録やキャンパスマップ、スケジュール管理機能などを一元化することで、学生と教職員のコミュニケーションをスムーズにし、学内外のリソース活用やOBOGネットワークの強化に繋がる可能性があるかと認識しています。これらの提案を踏まえ、今後のアプリ導入に向けた検討を進めていきます。また、データ分析を活用した教育や運営の質の向上に関しても、重要な視点として取り入れていきたいと考えております。</p>

## 【国際】

件名	学生の応募時のコメント	提案概要	回答
埼玉大学における多様性やキャンパス環境について	埼玉大学にはさまざまなコミュニティが存在しますが、国際交流の機会はありません。主に教養学部で交流イベントが行われており、他の学部や研究科ではあまり実施されていない印象です。私自身も3年間在籍してきて、国際交流を経験する機会が限られています。さらに、一部のスタッフの対応についてですが、私自身、配慮に欠けると感じることがありました。私は、尊敬を求めるのではなく、お互いに尊重し合うことで、より良い学内環境が作れるのではないかと思います。また、キャンパス環境についても、全体的に古さを感じます。掲示板や体育館などの施設が長い間改修されておらず、基本的なメンテナンスも十分ではないように思います。埼玉大学は評判の高い国立大学ですので、より良いインフラ整備が求められるのではないかと少し残念に感じます。	大学にはさまざまなコミュニティがありますが、国際交流の機会が限られていると感じます。主に教養学部で交流イベントが行われており、他の学部や研究科ではあまり実施されていない印象です。私自身も3年間在籍してきて、国際交流の機会を十分に得られませんでした。また、一部のスタッフの対応について、配慮に欠ける場面があり、お互いに尊重し合う学内環境の重要性を感じています。さらに、キャンパス内の施設が古く、掲示板や体育館などの改修が長期間行われていない点も気になります。大学の評判にふさわしいインフラ整備が求められるのではないかと感じます。	より多くの学生が国際交流を体験できるよう、今後の改善に努めていきたいと考えています。また、スタッフの対応に関するご指摘についても、より良い学内環境づくりに向け、相互尊重の精神を大切にされた対応を心掛けてまいります。キャンパス環境については、施設の老朽化やメンテナンスの必要性を認識しております。今後、インフラ整備の計画を進め、より快適な学びの場を提供できるよう努力してまいります。
留学生サッカークラブの設立	留学生サッカークラブを部活として作ることを提案する。きっかけは留学生と私生活の話をした際、彼らが運動する場をもていたこと。また、留学生にとって日本人の多いサークルへの参加はハードルが高いと考えたことだ。グラウンドのサッカーコートを使いたいという留学生の思いを汲んで、サッカー一部の顧問教授からコートの使用許可を頂いた。この使用許可を頂くのにもいくつか課題はあった。しかし、使用にはクラブを設立しなくては行けなく、大学側とその話で協議しているところである。今回は、クラブ設立にあたり、考えられる問題や大学側のメリットなどをお話してさたらいなど考えている	留学生サッカークラブを部活として設立する提案です。留学生が運動する場を求めていること、日本人中心のサークル参加にハードルを感じていることがきっかけです。サッカー顧問からグラウンド使用許可を得ましたが、クラブ設立には大学側との協議が必要です。クラブ設立にあたり、予想される問題や大学にとってのメリットについてご意見をいただければと思います。	留学生が運動する場を求めているというニーズに応えることは、大学の多様性を促進する上で重要だと考えています。クラブ設立に向けての課題や大学側のメリットについて検討してまいります。

## 【ブランディング】

件名	学生の応募時のコメント	提案概要	回答
埼玉大学にアイドルグループを作りたい	埼玉大学公認のアイドルグループを作り、snsやライブ活動を通して埼玉大学の宣伝を行い、入学希望者の増加を狙います。作曲、メイク、振り付け、衣装なども学内の人材(主に学生)に担当させます。これにより、アイドルも含めた運営メンバーが芸能分野での実績を作れたり、就職に繋がれるのではと考えます。他大学がもし後追いでアイドルグループを作るようになれば、大学アイドルという新しい文化が誕生するかもしれません。	大学公認のアイドルグループを作り、SNSやライブ活動を通じて大学を宣伝し、入学希望者の増加を目指します。作曲やメイク、振り付け、衣装などは学内の学生が担当し、芸能分野での実績作りや就職に繋がる機会を提供します。他大学が同様の取り組みを行えば、「大学アイドル」という新しい文化が生まれる可能性もあります。	ご提案いただいた大学公認のアイドルグループの活動について、大学の宣伝や学生の実績作りへの貢献する可能性があることは理解しております。アイドルグループを通じて大学の知名度向上や学生の自己表現の場を提供することは、確かに有益な側面があると考えます。ただし、具体的な実施に関しては、他の関連活動との調整や予算、リソースの確保、学生の意向等を考慮し、慎重に検討していく必要があると考えております。
埼玉大学のソーシャルメディアプレゼンスとブランド戦略の強化	(埼玉大学のソーシャルメディアでの存在感は、そのダイナミックな研究環境と国際社会を十分に紹介していません。このギャップに対処するために、研究プロジェクト、学生生活、イベントに関する魅力的なコンテンツを作成することにより、大学のブランド戦略を強化するための学生主導のイニシアチブを提案します。このアプローチは、私たちが思い描くイメージと一致し、将来の学生を引き付け、世界的な認知度を高めます。)	大学のソーシャルメディアでの存在感が、研究環境や国際的な活動を十分に伝えていないと感じています。このギャップを解消するため、学生主導で研究プロジェクトや学生生活、イベントなどに関する魅力的なコンテンツを作成し、大学のブランド戦略を強化する提案です。これにより、大学のイメージを向上させ、将来の学生を引き付け、世界的な認知度を高めることができると考えます。	ソーシャルメディアを通じた大学のブランド戦略強化に関する提案、非常に有益だと感じます。大学の研究環境や国際的な活動をより効果的に発信することは、大学の認知度向上にとって重要な要素であると考えています。学生主導の取り組みが大学の魅力を引き出し、将来の学生にも良い影響を与えることを期待しています。今後の取り組みについて、さらに検討を重ねてまいります。
知名度向上のために埼玉大学で漫画学部を設立してほしい	漫画は日本が世界に誇る文化なのですが、国公立で学問として取り扱っている大学がほぼ皆無な現状があり、アーティストの村上隆氏含めた有識者達が問題提起しています。私自身埼玉大学にまんが学部や漫画学科を作ることに対して埼玉大学自体の知名度やブランド力向上に繋げることが可能だと感じています。なぜなら、埼玉大学出身者には「テラフォーマーズ」「月刊少女野崎くん」「理系が恋に落ちたので証明してみた。」などの作者が数多く存在しており、現在「週刊少年ジャンプ」においても読み切りが載った作家が2名、美術専修の先輩にいらつやいます。また埼玉県には初の公立の漫画美術館「さいたま市立漫画会館」があったり、「クレヨンしんちゃん」「亜人」の舞台だったり様々な漫画の舞台にもなっています。良ければ、現在アーティストの村上隆氏が自身のYouTubeチャンネルを通じて、国公立大学においての漫画学科設置のあり方を具体的に提案していらつやるので、それをご覧になった上で、私どもと協議していただけると幸いです。どうぞよろしくお願い致します。	漫画は日本の誇る文化でありながら、大学で学問として取り扱われることが少ない現状があります。私は、大学にまんが学部や漫画学科を設立することで、大学の知名度やブランド力向上が期待できると考えています。実際、漫画家の多くが本学の卒業生であり、他にも漫画をテーマにした美術館や舞台が存在しています。アーティストの村上隆氏が提案している漫画学科設置の具体的な提案もあり、これについて協議を進めていただければと思います。	ご提案いただいた漫画学部や漫画学科の設立について、漫画が日本の文化として重要な位置を占めていることは広く認識しております。大学においても、漫画を学問として取り扱うことに関心を持つ方が多いことは理解しています。学部や学科の新設は、ニーズや学内のリソースを分析し、適切なカリキュラムを編成することが求められるとともに、その他様々な要素を考慮する必要があります。ご提案については、今後の検討の一つとして引き続き関心を持って参ります。

【障がい】	件名	学生の応募時のコメント	提案概要	回答
埼玉大学の障がい学生受け入れ体制の整備について	<p>昨年度には、埼玉大学にも障がい学生支援室が設置され、徐々にではありますが、埼玉大学でも障がい学生の受け入れ体制が整えられつつあります。私も障害を抱える学生の当事者として、埼玉大学で4年間を過ごしてまいりましたが、今年度の応用実習IIでは適切な障害配慮をしていただけなかった等のトラブルがあったこと、また来年度以降にはパソコンノートタイカーの人数が減少することが想定されることから、埼玉大学においては障がい学生の受け入れ体制を改めて考え直す必要があると感じております。現在は主に聴覚障害を抱える学生や発達障害を抱える学生、また精神疾患を抱える学生への支援が主となっておりますが、障がい学生支援室の取り組みの拡充により、今後埼玉大学に他の障害種の学生が入学してくる可能性が考えられます。そういった事態に直面したとき場合には、現在の体制では障がい学生への支援を続けることが困難であると感じております。応用実習IIを取り巻く私の現状については、現在も障がい学生支援室や教育学部係とは話し合いを続けておりますが、このようなタイミングだからこそ、坂井学長とディスカッションすることができれば幸いです。どうかご検討のほどよろしくお願い申し上げます。</p>	<p>昨年度、大学に障がい学生支援室が設置され、障がい学生の受け入れ体制が整いつつありますが、今年度の実習では実習先に障害があることを申し出たにもかかわらず適切な障害配慮をしてもらえないことがあった。また来年度以降はパソコンノートタイカーの人数減少が想定されることから、障がい学生支援体制の再考が必要だと感じています。現在支援を行っている学生は主に聴覚障害や発達障害、精神疾患を抱える学生に限られていますが、障がい学生支援室の取組の拡充により、今後、他の障害種の学生が入学する可能性もあり、現行の体制では障がい学生に対し十分な支援を続けることが難しいと考えています。現在、支援室や教育学部と話し合いを進めています。今後の改善に向けて議論を深めることができればと思います。</p>	<p>聴覚障害をはじめとする障がいを持つ学生の支援について、重要な視点で提案をいただきました。大学として、すべての学生が平等に学び、成長できる環境を提供することが最も重要であり、障がい学生への支援体制の強化はその一環として継続的に取り組んでいくべき課題です。 ご指摘いただいた式典や教育実習、実験の際の配慮、手話を母語とするろう学生への支援や他の障がいを持つ学生への支援に対応出来るよう、支援学生の養成に引き続き取り組みつつ、支援体制の基盤構築も視野にいれ、さらなる障がい学生支援体制の充実を検討していきます。支援学生の養成や支援体制の強化など、障がい学生支援に必要な基盤を予め整えておく重要性は本学も認識しています。多様な学生が学びやすい環境を作るため、引き続き支援体制の充実を目指して努力してまいります。</p>	
	<p>私は埼玉大学としての支援を受ける初めての聴覚障害学生として入学し、支援体制が構築される流れの中に参加させていただきました。先生方のご尽力があり、第3タームから正式にパソコンノートタイクを用いた支援を受けることができるようになりましたが、まだまだ支援体制そのものに改善点があると感じております。例えば、式典や教育実習等における配慮、実験を必要とする理系学部にて聴覚障害学生が入学した場合の支援方法、手話を母語とするろう学生への支援方法をはじめ、聴覚障害のみならずその他の障害種においても支援が後手に回ることがないよう、予め支援学生の養成や支援体制の基盤構築を行うべく、どこが必要なのではないかと考えております。多様な人々が学べる埼玉大学を実現するため、障害学生支援という視点からディスカッションさせていただければ嬉しく思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>	<p>私は大学で初めて支援を受ける聴覚障害学生として入学し、支援体制の構築に参加してきました。パソコンノートタイクによる支援を受けることができるようになりましたが、支援体制には改善点があると感じています。例えば、式典や教育実習、実験が必要な理系学部への支援方法、手話を母語とするろう学生への支援方法などに対応出来るよう、予め支援学生の養成や支援体制基盤構築を強化する必要があると考えます。今後、多様な人々が学べる大学を実現するためのディスカッションを進めたいと思います。</p>		

【欠席者のテーマ】	件名	学生の応募時のコメント	提案概要	回答
社会人対象リスクリング、リカレント教育	<p>混沌とする先の見えない世の中で、地政学的リスクによるサプライチェーンも課題であり、そこで新卒就職後、ミスマッチによる退職、転職の機会が増える傾向にあり、そこで社会人には、学び直しの機会が必要だと感じる。また学部生には、従来一流大学、一流企業、終身雇用の古い日本の会社人間でなく、欧米のように学生時代に起業したり、大学卒業後、一流企業でなくベンチャー企業に就職して、自ら将来ベンチャー企業を創業するような多様性ダイバーシティがこれからの教育には、必要だと感じます。もう1点は、埼玉大学ですでの、埼玉内の企業の経営課題の解決をするソリューション教育も有れば、WIN-WINの関係になると思います。 「最近、一部の大手会社の初任給が大幅に上がっております。」私見ですが、社名や金額よりも自分がどういったキャリア形成したいか(自分がやりたい仕事)を重要視して欲しいです。社名や金額でつられて入社しても、研修後、自分がやりたい仕事でないところに配属されて、短期間で退職する結果になります。初任給は従来そのままでも、自分がやりたい仕事だと、我慢できたり長期間勤務(今後は終身雇用までは無理としても)でき、ストレスなく、良い人生を過ごせると思います。社会人の視点でアドバイスさせて頂きました。 1. 最近、東京理科大学がMOT(技術経営)学習を推進しております。ご存知のように同大学には文系が有りません。理系で経営学を取り入れたカリキュラムです。一方、一橋大学は、文系のみで、インバージョンの学習に力を入れております。埼玉も他校との差別化を図りオープンバージョンセンターが有りますが、授業として理工学部と経済学部の学生のシャッフル(交換授業で選択科目のカリキュラムに入れる)で文理問わずMOTを学習する授業が可能だと思います。なぜなら将来、MOT人材が求められると思います。 2. 以前、埼玉と群馬大の合併話が有りました。少子化の流れかどうか不明ですが、群馬大には、医学部が有り、付属病院も有ります。最近、東京工業大学と東京医科歯科大学の合併がありました。将来、埼玉医科大学や群馬大学との合併も埼玉大学の発展には必要だと感じます。</p>	<p>現在の不安定な社会状況と地政学的リスクが影響を及ぼす中、特に新卒者の就職においてミスマッチが増え、退職や転職の機会が多くなっています。これに対して、社会人には学び直しの機会が求められると考えます。また、学生には、従来一流大学・企業志向から、起業やベンチャー企業への就職を促進し、多様なキャリアの選択肢を提供する教育が重要です。 さらに、地域貢献の一環として、県内企業の経営課題解決に取り組むソリューション教育が実施できれば、大学と企業がWIN-WINの関係を築けると考えます。 加えて、最近一部の大手企業では初任給が大幅に上昇していますが、金額や社名に惑わされることなく、自分のやりたい仕事やキャリア形成を重視することが大切です。自分のやりたい仕事に就くことで、長期的な勤務が可能となり、充実した人生を送れると思います。 また、理系の学生向けにMOT(技術経営)のカリキュラムを取り入れることや、文理を問わず学生が互いに学び合うオープンバージョンの促進が求められます。MOT人材の需要が今後高まるかと考えています。 最後に、少子化の影響を受け、将来的には他大学との合併も本学の発展に寄与する可能性があると感じています。</p>	<p>現在の社会経済の変動により、若年層の就職環境においてミスマッチが生じやすく、退職や転職の機会が増加している現状を踏まえ、社会人としての学び直しや、多様なキャリア形成の重要性についてご指摘いただきました。この点に関しては、今後の教育やキャリア支援においても、柔軟で多様な選択肢を提供することが求められると認識しております。 また、地域企業との連携や、企業の経営課題解決に向けたソリューション教育に関する提案は、地域社会との共生を目指す上で有益な視点と考えております。さらに、学生が自身のキャリアにおいて重要視する要素をしっかりと見極めることの大切さにも共感します。学生が自分のやりたい仕事に就くことで、より充実した社会生活を送るための支援が必要であると感じています。 理系と文系の枠を超えた学びや、MOT(技術経営)人材の育成の重要性についても、今後の学びの選択肢を広げるために検討すべきテーマとして注視していきます。 最後に、少子化などの社会的課題に対応するため、他大学との連携や合併の可能性についても、今後の発展に向けた議論が必要であると考えております。貴重なご意見をありがとうございます。</p>	
	<p>理学部生として交換留学制度を実際にご利用し、留学前後に行った先生方とのやり取りを通して、理学部では学部、学科内で留学に関連するルールが統一されておらず、他学部と比べ学生を留学に送り出す体制が整っていないように感じました。一方で、大学としては埼玉大学の強みとして交換留学の行き先の多さや、国際交流の豊かな大学生活を送れることを掲げている印象を受け、実状との齟齬があるように感じました。そこで、理学部の先生でもおられた坂井先生とこれまでの体制について議論し、今後理学部の学生が気持ちよく留学制度の利用を検討できるようにすることを期待しております。</p>	<p>理学部生として交換留学制度を利用しましたが、留学に関連するルールが学部内や学科間で統一されておらず、他学部と比べて留学に送り出す体制が整っていないと感じました。一方で、大学は交換留学先の多さや国際交流の充実を強みとして掲げているように、実際の運用との間にギャップがあるように思われます。この点について、改善の余地があるのではないかと考えます。</p>	<p>交換留学制度について、学部や学科間でのルールの統一が不十分であり、留学体制に改善の余地があるとのご指摘をいただきました。大学としては、国際交流の促進や留学先の多さを強みとして掲げているものの、実際の運用において齟齬を感じられるとのこと、貴重なご意見として受け止めております。今後、より多くの学生が留学を活用できるよう、制度の整備や体制の改善に向けた検討を進めてまいります。</p>	